

部活動に想う



部活動は長年にわたって学校教育に定着したいわば文化であり、その意義は子どもたちのみならず、教員にとっても補完的な教育をする絶好の機会となりました。学校におけるその存在価値は言うまでもありません。しかし、今、部活動の在り方が問われています。少子化である現在、各学校の部活動の数には限りがあり、選択の余地がないこと、チームとして成り立たない現状があること、専門的な技能を指導できる指導者がいないことなど、様々な問題が浮き彫りになっています。そして、部活動の地域移行が求められています。とくに休日の部活動地域移行についてはスポーツ庁と文化庁の専門家による検討会議がそれぞれ来年度から3年間を改革集中期間とする提言をまとめました。指導する人材の確保、運営する組織・団体の整備、大会の在り方、活動施設の確保、それらに係る諸費用の財源などなど、これからの道のりの険しさを感じます。行政、地域、学校が知恵を絞り、目の前にいる一生懸命な子どもたちのために持続可能な取組を確実に進めていくことが必要です。

今年の夏、本校の男子バスケットボール部が12チームで競う大会に参加しました。部活動として参加したチームは本校の1チームのみで、他11チームのクラブチームに交じり、2日間プレーしました。閉会式、1位から3位までの表彰を終えたところで、特別に表彰していただいたとのことです。そして、特別賞の理由を次のように話されたそうです。「失敗してもしょげたり、ふくれたりしない、とにかくひたむきで素晴らしい。一生懸命プレーする姿は、すべてのチームの目指す姿です」

一生懸命はカッコいい。中総体、サマーコンサート、各種大会、部活動、応援団練習、この夏、たくさん一生懸命がありました。

9月1日、2学期が始まりました。子どもたちの元気な挨拶、生き生きとした目にエネルギーをもらいます。たくさんの表彰を披露することもできました。今学期も感染対策をしっかり講じながら教育活動を進めていきます。この2学期も「品中プライド」をもって、仲間とともに高め合ってほしいと思います。